

第 13 回 共和政ローマ②

1 ローマ社会の変質

・ポエニ戦争の結果、イタリア半島の農地は荒廃し、さらに属州から安価な穀物が輸入されたため、戦争に従軍した（ ）した。

・一方で元老院議員を中心とする貴族や、徴税請負人として属州から税金を集めた（ ）などの支配層は、荒れ果てた農民の土地を大量に買い集めた。

→広い土地を持つ、大土地所有者が出現した。

→彼らは戦争捕虜を奴隷として働かせて、穀物・オリーブ・ブドウを栽培した。

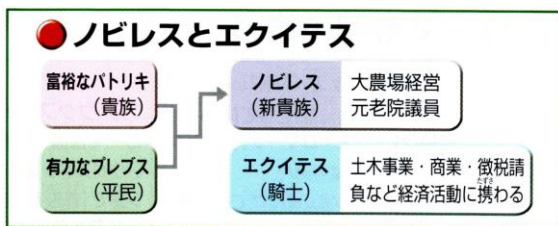
※このような大規模な農業経営を（ ）という。

・奴隷制は最盛期を迎えたが、農場などから逃亡した奴隷による反乱も起こった。

※特にシチリア島の奴隷反乱が有名。

・また土地を失った農民は、遊民となってローマなどの大都市に流れ込んだ。

→彼らは（ ）を要求した。



ラティフンディア

単数形でラティフンディウムとも言う。奴隷を大量使用するラティフンディアに、中小農民は全く対抗できなかった。しかし奴隷が獲得できなくなると、ラティフンディアも徐々に行き詰っていく。

2 共和政ローマの改革

・ギリシアと同じようにローマでも、農民の没落は重装歩兵の減少につながった。

→そのためローマでは、前 135 年ころから国力回復のための改革が行われた。

◆（ ）の改革（前 133～前 122 年）

・あいついで護民官に選ばれると、（ ）を復活させて

大土地所有を制限し、土地を失った農民に配ることで自作農の復活をはかった。

→大土地所有者の大反対にあって失敗した。

◆（ ）の軍制改革（前 107～前 101 年）

・農民の再生をあきらめ、武器を買えない無産市民に無料で武器を配った。

→軍制改革により兵士不足は解消し、ヌミディア王とのユグルタ戦争にも勝利した。



グラックス兄弟

グラックス兄弟は、大スキピオの孫にあたり、ローマでは名門の家系に生まれた。兄弟で全く性格は違ったが、改革の目的は同じだった。



マリウス

マリウスによる改革は、ローマの社会を大きく変えていった。共和政から帝政に変わる、ターニングポイントである。



映画『ベン・ハー』

「見世物」はラテン語で Circus といい、「競技場」を意味する。そこで行われた競技は、戦車競走や剣闘士競技といった血なまぐさいものだった。

3 内乱の1世紀

- ・マリウスの軍制改革以降、政治家たちにより軍隊が私物化されていった。
→政治権力争いが武力衝突に発展し、内乱が繰り返された。
- ・グラックス兄弟の改革から、元首政が成立するまでの混乱した 100 年間で、一般的に「
」という。

- ・前 88 年ころから、平民の支持を得る（
）と、大土地所有者など元老院の支持を得る（
）との対立が起こった。
※平民派の代表は（
）、閥族派の代表は（
）
- ・前 91 年、イタリア半島の同盟市が、ローマ市民権を要求して反乱を起こした。
※（
）といい、ローマ市民権が与えられることで収まった。
- ・前 73 年、剣闘士（剣奴）を中心に（
）が起こった。



マリウス

VS.



スラ

マリウスの軍制改革以降、有力政治家は自分の軍隊を組織して、権力争いを繰り広げることとなる。特にこのふたりの内戦は、数万人の犠牲者を出した。



映画『スパルタカス』

スタンリー=キューブリック監督、カーク=ダグラス主演。トラキア出身の剣闘士（剣奴）スパルタクスが起こした反乱を描いた。最後はポンペイウスとクラッスに鎮圧された。

4 第1回三頭政治

- ・前 60 年、有力な 3 人の政治家が同盟を結んで政権を握り、（
）が成立した。

◆（
）

- ・有力な将軍であり、スパルタクスの反乱鎮圧、セレウコス朝シリアやパレスチナのハスモン朝の征服、地中海の海賊討伐、ミトリダテスの反乱鎮圧で有名になった。

◆（
）

- ・（
）（現在の
）への遠征を成功させた。
※この遠征の記録である『
』は、名文として知られている。

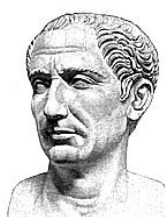
◆（
）

- ・大富豪で、ポンペイウスとともにスパルタクスの反乱を鎮圧した。
- ・東方の（
）との戦いで戦死した。



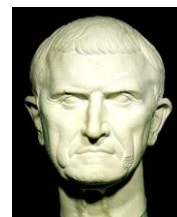
ポンペイウス

三頭政治では、最も有力な人物であった。アレクサンドロスに匹敵する人物と評されたが、運をつかみきれなかった感がある。



カエサル

「ハゲの女たらし」と呼ばれ、ローマきってのプレイボーイである。元老院議員の妻たちのうち、約3分の1がカエサルと不倫関係にあったという伝説も。



クラッス

パルティアとの戦いでは、騙し討ちに近い形で、あえない最期を遂げた。クラッスの突然の死は、三頭政治のバランスを大きく崩すことになる。